

令和6年度「第16回高知市医師会 市民フォーラム」趣意書

「知っておきたい救急医療」

日時：令和7年3月1日(土) 午後2時開演

会場：総合あんしんセンター3階 大会議室

高知市医師会では市民フォーラムを毎年1回開催しています。第1回は平成21年に、「もしもの時、行き場がなくなったらー高知の救急医療を守るためにー」をテーマに行いました。当時、すでに救急医療現場には危機的状況があり、そのことを市民の皆様にも知って欲しいと発信したフォーラムでした。

あれから15年を経て、再び救急医療を取り上げます。全国的に救急車による出動件数は年々増加の一途をたどり、高知県下では令和6年7月に、1か月あたりの出動件数として過去10年間で最多を記録しました。こうしたことから、近年、119番通報から救急車が到着するまでの時間と病院に到着するまでの時間が伸びており、大きな問題になっています。

救急車を利用すると早くに診察を受けられると誤解していませんか？救急車では、かえって受け入れ病院が決まりにくい場合もあります。救急現場では、命の危険が迫る患者が最優先です。軽症の場合、すべての患者に精密検査を行うことはできません。その場合は平日昼間の受診を促されます。

救急車の台数は限られており、救急車が必要でない利用が増えれば、本当に必要な人への救急車の到着が遅れ、救える命を失うことにもなります。救急現場の実態を知り、救急車の適正利用を一緒に考えてみませんか？

人生の最終段階で救急車を呼ぶと、駆け付けた救急隊員は延命処置を施します。「人生会議(ACP)」では、自分自身の人生の最終段階において延命処置を希望するのか、特別なことはしないで自然に静かに最期を迎えたいのか、事前に話し合うことを勧めています。急変時の心臓マッサージや気管挿管などの延命処置を行わないことを望む場合、「終末期蘇生希望せず」を事前に取り交わすことについての検討も行われています。救急現場の実態について専門医の話を聞き、人生の最終段階の医療について一緒に考えてみませんか？

演題・講師

1. 「消防からみた救急の現状と課題」

演者 吉村一司高知市消防局救急課長

2. 「人生最終段階の医療について」

演者 西山謹吾高知大学医学部危機管理医療学講座特任教授

来場者からの質問にお答えする時間もあります。コロナ感染者急増の場合は、やむを得ず中止となる場合もあることをご了承ください。

お問い合わせ先： 高知市医師会 市民との対話推進委員会

TEL (088) 824-8311